

ギブソンさんがヨーロッパ大会優勝！

新宿区剣道連盟
会長 真砂 威

4月11日～13日、フランス（クレルモン＝フェラン）で行われた第26回ヨーロッパ剣道選手権大会（26EKC）にスチュアート・ギブソンさんがイギリス代表選手として出場し、見事、個人優勝を果たしました。

世界剣道選手権大会（WKC）は3年に1回行われますが、EKCはWKCが行われない年、すなわち3年に2回開催されます。

EKCでのイギリス人の優勝は、第1回大会（1EKC）でトッド選手が優勝して以来、40年ぶり2人目の快挙です。

以下、ギブソンさんから送られてきた試合に関するコメントを下に貼り付けます。

*

予選リーグの初戦では、先日優勝したイタリアのメンバー、ペッツ選手、2-0で勝ち、MMでした。その次はフィンランドの上段のブレーメン選手、1-0で勝ち、相面で勝ちました。

予選突破してトーナメントに入り、一回戦はスウェーデンのセーゲスタド選手、2-0でMMでした。

二回戦はポーランドのリピンスキー選手、延長でMで勝ちました。

三回戦から相手が少し強くなって、先日三位したスイスのベテランのクローベル選手、2-1でMM-Hで勝ちました。

準々決勝でベルギーの大將、ハーケ選手でした。ハーケ選手は18回大会で個人準優勝、22回大会で個人三位、25回大会で団体準優勝などの成績のある選手ですが、MMで2-0で勝ちました。

準決勝は予選と同じく、先日優勝したイタリアチームのメンバーバエーリ選手と対戦し、MKで2-0で勝ちました。この試合はこの日の一番難しかったですが、一番よかったと思います。揺れずに強い相手と対戦して、自分の剣道を出し切ることが、この試合で一番できたと思います。ただ、試合中に頭の後ろが強く打たれ、星が見えたり、見えないところ（盲点？）がでたりして、決勝がやばいかなと思っていました。

決勝戦はベルギーの若手の実力者の前本選手でした。日本とベルギーのハーフで、インターハイにも出場したことがあるらしいです。決勝戦に出る準備をしてもまだ目に星や見えないところがありました。幸いに初太刀で小手すりあげ面を3秒ぐらいでとりました。その直後、優勝できるかなとその日に始めて考えました。リードを守るために十分に攻めたりして、開始から3分ぐらいの時点で小手返し面で優勝が決まりました。

※ M=面 K=小手 H=反則

*

なお、来年5月末に16WKCが、日本・東京・日本武道館で開催されます。

ギブソンさんは、当然イギリスチームの選手に選ばれることとなるでしょうが、新宿剣連始まって以来のWKC選手の出現、ギブソンさんの応援も含め、16WKC開催に向け、大いに盛り上げていきたいと思います。



第 26 回全ヨーロッパ剣道選手権大会 優勝のシュワート・ギブソン選手



第 26 回全ヨーロッパ剣道選手権大会の対戦表の前にて